

委員からの主な御意見について

議題1 資料3

番号	プログラム番号	委員からの御意見・御質問	答申案への反映状況（資料4のページ数を記載）等
1	1	子供達、若年層こそが宮崎の未来を担う。問題もまだ多く残されており、それに対する対策も簡単ではないが、根気よく、そして細やかなサポートをお願いしたい。	p5 「県内就業・就学機会の確保、働く場所の魅力向上及びPR等に、より一層力を入れるとともに、さらなる施策に県下一丸となって取り組む必要がある。」と記載。
2	1	人口減少・超少子高齢社会の中で、若者の流出、人財の育成は具体的な施策が必要と感じる。	
3	1	令和2年度国勢調査の結果(速報値)によると、県内の人口減少がより深刻となっている。県下一丸となって人口減少対策に関する取組を強化する必要がある。	
4	1	令和元年度実績での初任給水準の全国平均との差が大きくなっており、コロナ前の好景気の反映が遅れたためとも推察されるものの、コロナの影響で差が拡大しないように歯止めをかけられないものか。未だに首都圏、大企業志向への対策が難しかったように見える数値が残念であった。	p6 「コロナの影響で全国平均との乖離率がさらに拡大しないように対策を取るとともに、～が必要である。」と記載。
5	1	ジェンダーギャップを解消・改善する取組が必要だと考える。若い世代の女性が働く場の確保や、性別役割分担意識の解消などを進めてほしい(中山間地域含め)。	p7 「～ことから、若い世代の女性が働く場の確保や働きやすい環境づくり、性別役割分担意識の解消等の取組も強化する必要がある。」と記載。
			p8 「～とともに、地域の資源や特性を生かした産業の振興を促進することによって、中山間地域における働く場の確保と多様な産業が連携した労働力確保の仕組みづくりを進める必要がある。」と記載。
6	1	コロナの影響で、児童生徒が地域活動に参加したり、地域住民や人財が学校支援活動を行ったりする機会が少なかったことが実績値に影響していると思われる。	p9 「コロナの影響で、児童生徒の地域活動への参加や、地域住民・人財が学校支援活動を実施する機会が制限されたことから、「地域活動に積極的に参加した児童生徒の割合」等複数の指標が目安値を下回った。」と記載。
7	1	市町村の財政状況や教員のスキルにより、地域間また同地域の中での格差が生じないようご配慮をいただきたい。	p9 「特に、ICT教育については、市町村の財政状況や教員のスキルによって地域間や同一地域内で格差が生じないようにする必要がある。」と記載。
8	1	未来を担う子どもたちの育成に対し、今の時代にあった学びへの提供ができていないという危機感がある。子どもたちが未来のリーダーである事実をふまえると、同じ時間軸を持つ他県、他国とのギャップ、知る機会は平等でなければ、将来の可能性を大人の都合(数年前に計画したアクションプラン)で狭めてしまう。それは本県の未来だけでなく今(大人)にも大きな影響があると考えられる。(意識改革を促す意味で)	p9 「また、未来を担う子どもたちに対して、今の時代にあった学びを提供するとともに、教員や教員を目指す学生等への支援も求められる。」と記載。

番号	プログラム番号	委員からの御意見・御質問	答申案への反映状況（資料4のページ数を記載）等
9	2	新たに30億円以上の売上高に成長した企業が複数となり、県内企業にプロ人材が投入されるなど、企業の底上げが進み、発展の基盤が築かれつつある結果は高く評価できる。上場企業の増加にも今後期待したい。また、エネルギーの地産地消に向けた取り組みが再生可能エネルギー量増からも推察された。	p11 「～達成しており、企業の底上げが進み、発展の基盤が築かれつつあると評価される。」と記載。
10	2	コロナ禍の中で評価し難い面もあるが、社会インフラの進展やフードビジネス、農業産出額等評価すべき点も多い。	p11 「成長産業化については、フードビジネスや農林水産業等において生産額や輸出額等が増加し、着実に進んでいるものの、～」と記載。
11	2	コロナの中急成長を林業が遂げている。	
12	2	SDGs経営、ESG経営、持続可能な農水畜産業への行政からの後押しがもっと必要である。企業の成長戦略に、DXではなく、SX(サステナビリティランスフォーメーション)をおかないと10年後、20年後社会をみると非常に不安。(おいていかれます。選ばれません。)	p11 「また、持続可能な農林水産業への後押しや企業の成長戦略へサステナビリティランスフォーメーションを導入することを促すことも求められる。」と記載。
13	2	指標に示されている内容だけでは計れない多くの問題がコロナの中で起きている。飲食業以外でも大きく影響を受けている中小企業が置き去りにされないようにサポートをお願いしたい。	p11 「さらに、コロナによって大きく影響を受けている事業者への支援を継続的に実施するとともに、アフターコロナを見据えた積極的な取組の展開が必要である。」と記載。
14	2	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた産業の支援を強化するとともに、アフターコロナを見据えた積極的な取組の展開を期待する。	
15	2	交通・物流ネットワークについてコロナ禍の中で適切に対応されていると評価する。次期総合計画においては、人口減少に対応する新たな交通システムを目指して進めるよう希望する。	p11 「交通・物流ネットワークについては、着実に基盤整備が行われているが、～」と記載。
16	2	「就業者1人当たり農・水産業の生産額」は、相場の変動による販売価格の上昇・下落に大きく左右されるものであり、重点指標としてはいかがなものか。（「農業産出額」についても同様）また、生産額が上昇したとしても生産者の所得が確保されなければ目標達成に近づいていないとは言えないのではないか。	p13 「また、生産額・産出額の増加のみならず、生産者の所得向上を図る必要がある。」と記載。
17	2	低炭素ではなく脱炭素の時代。また、「グリーンリカバリー」や地域循環共生圏を軸に取り組んでほしい。	p15 「～とともに、気候変動を抑え、生態系を守りながらコロナ危機で停滞した社会を立て直そうとする「グリーンリカバリー」等を軸に、持続可能な脱炭素・循環型の地域づくりに係る取組を強化していくことが求められる。」と記載。

番号	プログラム番号	委員からの御意見・御質問	答申案への反映状況（資料4のページ数を記載）等
18	3	今の段階で誘客が難しい。	p17 「観光分野においては、～物理的に誘客が難しい状況ではあるものの、～観光業界の再興に向けた取組を強化するとともに、アフターコロナを見据え、コロナによって変化した人々の価値観に対応した戦略やPRを準備・実施する必要がある。」と記載。
19	3	コロナの影響がとても大きいので致し方ないと思う。準備、時代にあわせた実践が求められると思う。	
20	3	厳しい1年だった。アフターコロナを期待したい。	p17 「コロナの影響を大きく受け、成果として評価できる取組が進んでいないため、コロナ収束を見据えた新たな誘客の取組や国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭開催を契機とした文化力の向上を図っていく必要がある。」と記載。
21	3	大変厳しい情勢下であり、計画通りの展開が出来なかった面も多々あったように思う。	
22	3	新型コロナウイルス感染症の影響を受けている観光業界の再興に向けた取組の強化に期待する。また、文化・スポーツ関連についてもアフターコロナを見据えた積極的な取組の展開を期待する。	
23	3	コロナの影響の大きいテーマであることから成果が上がらなかった。魅力度・認知度は来県にかかわらず何らかの戦略が打てるのではないか。早期にコロナ社会に対応した新しいアプローチを創出する必要があると感じた。	p18 「また、魅力度・認知度向上に関しては、来県の有無に左右されない、コロナに対応した新たなアプローチ戦略が求められる。」と記載。
24	3	「スポーツランドみやぎ」の取組については、観光振興の面と県民の健康増進の観点とを分けて考えた方が良いのではないかと。	p19 「「スポーツランドみやぎ」の取組については、観光振興の観点からは、～する必要がある。また、県民の健康増進の観点からは、～により一層力を入れる必要がある。」と記載。
25	3	産業、経済と同様にコロナの影響を大きく受けていることから評価が難しい。ウィズコロナ、ニューノーマルの世界における文化のあり方、スポーツのあり方を前向きに考えていくことが求められていると思う。	p19 「ウィズコロナ、ニューノーマルの世界におけるスポーツのあり方等を前向きに考えていくことも求められる。」と記載。
26	3	「日頃から文化に親しむ県民の割合」が上がらなかったのは、コロナの影響が大きいと思う。国文祭・芸文祭が1年遅れて開催されているが、今、県内各地で文化活動が盛んに行われている。令和3年度には数値の上昇が期待できる。	p20 「コロナの影響により、1年延期となった「国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭」が開催されており、県内各地で文化活動が盛んに実施されているこの機会に、足元の文化の価値に県民が気付くような環境づくり・取組を進めるとともに、その文化を磨き上げ、県内外に強く発信することが求められる。」と記載。
27	3	「日頃から文化に親しむ県民の割合」の調査の仕方は現状のままでよいか検討してよいかも。先日参加した会議では、食などの生活文化は、意識していないだけで、多くの人がその土地の風土や先人の知恵により育まれた文化に接している、という話題になった。せっかく国文祭・芸文祭期間中なので考える機会を持つといい。足元の文化の価値に気づき、磨いていけば内外に強く発信することもでき、交流・関係人口増につながったり、住民の誇りとなり若者の定着につながったりするのでは。	

番号	プログラム番号	委員からの御意見・御質問	答申案への反映状況（資料4のページ数を記載）等
28	4	健康づくり等県民の間に浸透しつつある活動も見受けられ、コロナ、ワクチン接種を機に医療体制も改めて見直され強化が図られた。	p21 「福祉・医療の充実等については、コロナを機に医療体制が改めて見直され、強化が図られた一方で、健康診断の受診減といったコロナで顕在化しにくくなっている部分への対応を検討する必要がある。」と記載。
29	4	医療体制の充実が高く評価できる。一方、水面下、特にコロナ社会で顕在化しにくくなっている部分（例えば健康診断のタイミングがずれる・受診減など）が現在のままで対処可能か等の考察を今後検討できないだろうか。	
30	4	コロナ禍での安心して医療・介護現場、ソーシャルワーカーの方々の労働条件、職場環境整備が急務と感じる。	p21 「また、コロナ禍における医療・介護等の人財やソーシャルワーカーの方々の労働条件、職場環境整備が求められるとともに、県民一人ひとりの心身への影響も懸念されることから、対策を強化する必要がある。」と記載。
31	4	コロナ禍が長引き、県民生活や県民一人一人の心身の健康への影響が心配。先手を打った対策で「安心して健やかに暮らせる地域社会」を目指してほしい。	
32	4	高齢者、子供達、そして女性が喜びを感じ、活躍できる宮崎だとはまだ思えない。ダイバーシティ、SDGs、言葉だけではなく、一人一人に寄り添える宮崎であるよう工夫が必要。	p21 「安心して暮らせる社会づくりについては、子どもや高齢者、女性、障がい者など多様な人財が喜びを感じ、活躍できる宮崎にはまだ至っていないことから、一人ひとりに寄り添った社会となる取組により一層力を入れる必要がある。」と記載。
33	4	貧困問題も数字で明らかになる前にコロナ社会への対応策を要するよう思える。	p21 「貧困問題、特に、子どもの貧困対策は重要な課題であり、市町村や学校等と連携し、相談体制の構築等を図り、高等学校等の進学率向上を目指すことにより、貧困の連鎖を防止することが求められる。」と記載。
34	4	意見も出したが、実際の体感(貧困)や詳細項目では0点であるものの、数字のマジックで評価が上がると本来の課題が見えなくなる。	
35	4	県の近未来を左右する介護人材、外国人労働者に対する人材育成研修だけでなく、雇用(企業)側の受入れ研修(特に人権について)も重要だと考える。	p21 「性別や年齢・国籍を問わず、誰もが生涯にわたって活躍できる多様性を持った社会づくりに向け、関係団体との連携を強化し、より一層取り組んでいく必要がある。また、近年増加している外国人労働者に対する人材育成研修だけではなく、企業側の受入研修も必要である。」と記載。
36	4	生涯にわたって活躍できる地域社会の実現に向けて、関係団体との連携強化に期待する。	
37	4	本県は、肥満者の割合やBMIの平均値が全国でも高い県であるので、解消に向けた取り組みを強化すべきではないか。	p22 「また、健康づくりについては、肥満者の割合やBMI平均値が全国平均よりも高いことから、～取組を強化する必要がある。」と記載。

番号	プログラム番号	委員からの御意見・御質問	答申案への反映状況（資料4のページ数を記載）等
38	5	自助共助を期待するのであれば地域の次のリーダーの育成に力を注ぐことが今必要。コミュニティが希薄になっているからこそ、経済界とともにサステナビリティを意識した町づくりをしていく自分ごとにそれぞれが捉える仕掛けが必要だと強く思う。会社人ではなく社会人育成。	p25 「また、自助共助をより促進させるため、地域のリーダーを育成するとともに、サステナビリティを意識したまちづくりを進め、自分ごととして県民一人ひとりが意識する取組を強化する必要がある。」と記載。
39	5	コロナ対策では特に関係の深い分野であり、評価に値する取組をされていると感じた。	p25 「人への感染症対策については、コロナの対応を関係機関が一体となって取り組んでいること等により、予防・流行対策は着実に強化されていることから、～」と記載。
40	5	近年の気象変動による多くの災害に加え、コロナ対策と多くを求められる中、宮崎県民が安心して生きていける体制がしっかりと整いつつあると思う。	p25 「ソフト・ハード両面からの防災・減災対策、感染症に対する流行対策強化等、県民が安心して暮らせる体制が整いつつあると認められる。」と記載。
41	5	近年全国的に各種災害が頻発しているので、引き続き防災・減災対策の強化をお願いしたい。	
42	5	大雨、土砂災害、地震、津波、いつでもどこでも当たり前にかかること。自然を守り抜くこと、休耕田畑、耕作放棄地の管理を徹底する。自治、公民館活動の新たな連携の仕方（高齢者増で活動が下火）。コンビニ、郵便局の活用の取り決め、完成度の高いシナリオを作る。	p26 「近年、各種自然災害が全国的に頻発していることから、～とともに、耕作放棄地等の管理を徹底することが求められる。また、県民に対するよりわかりやすい広報に一層力を入れ、～災害に強いまちづくりを推進する必要がある。」と記載。
43	5	全国各地で発生している災害は、本県においていつ発生してもおかしくないため、今後も引き続き、危機感を持った対応に努めていただきたい。	
44	5	自然災害、地震等、いつどこで起こってもおかしくない状況。県民の方々が安心して暮らせるような解りやすい広報が必要である。	
45	5	「災害に対する備えをしている人の割合」はこれぐらい低いのに、高い「達成度」を示している。基準値がそもそも低いように感じたが、基準値はどのように設定したのか知りたい。一人一人に届く施策としてどんなことをしているのか知りたい。	回答 基準値は、平成31年2月に実施した県民意識調査の結果とし、目標値は、過去の調査結果の伸び率を参考に設定しております。 施策としては、「宮崎県防災の日」や「防災週間」等の節目の時期に、C Mやポスター等を活用した啓発活動や防災士出前講座等により、県民の防災意識の向上を図っております。 引き続き、啓発活動や出前講座を実施するとともに、分かりやすく、幅広い層の方々に関心を持っていただけるよう工夫してまいります。
46	5	家畜防疫対策の充実も示されているが、今後海外からのリスクがコロナ下でも懸念される。基幹産業である畜産・養鶏分野の防疫体制を引き続き強化してほしい。	p27 「引き続き、関係者が一丸となって、～取組を進め、基幹産業である畜産・養鶏分野の防疫体制を強化する必要がある。」と記載。